

国土交通省等における最近の主な取組

国土交通省における取組

サイトラインの確保等に係る検討WGの設置について

趣旨

- 建築物のバリアフリー基準の見直し方針（建築物のバリアフリー基準の見直しに関する検討WG 報告（令和6年3月29日））において、劇場、観覧場、映画館若しくは演芸場又は集会場若しくは公会堂（以下「劇場等」という。）の車椅子使用者用客席の設置数等に係る基準案が示され、また客席の①サイトラインの確保、②分散配置、③同伴者席に係る事項について、令和6年度に予定している「建築設計標準」の改正等への反映に加え、継続して現状の把握・技術的検討等を進める方針が示されたところ。
- このため、「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準に関するフォローアップ会議」に、学識経験者・障害者団体等・事業者団体・建築関係団体等で構成する「サイトラインの確保等に係る検討WG」を設置し、サイトラインの確保等に係る設計・評価手法の現状把握・技術的検討、及び実効性の高い枠組み等について検討を行う。

検討WGメンバー

学識経験者、当事者団体（車椅子関係）、施設管理者関係団体、設計者団体、審査者団体、関係省庁（オブザーバー）

検討スケジュール（案）

時期	実施計画	
2024（令和6）年6月27日	第1回検討WG	・検討経緯、課題の共有 ・サイトラインの確保等に係る論点（案）についての意見交換
2024（令和6）年10月4日	第2回検討WG	・調査結果の共有 ・サイトラインの確保等に係る枠組みの方向性の整理
2024（令和6）年10月18日	第7回建築設計標準フォローアップ会議で報告	
2024（令和6）年12月9日	第3回検討WG	・サイトラインの確保等に係る枠組み（案）の提示
2025（令和7）年1月28日	第4回検討WG	・サイトラインの確保等に係る枠組みのとりまとめ
2025（令和7）年3月7日	第8回建築設計標準フォローアップ会議で報告	

キャンペーン概要

改正された「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」では、「高齢者障害者等用施設等※の適正な利用の推進」が、国、地方公共団体、施設設置管理者等、国民の責務として規定され、令和3年4月1日から施行。

本施行を踏まえ、高齢者障害者等用施設等の適正な利用の推進のためキャンペーンを実施し、「障害の社会モデル」の考え方を普及させ、「心のバリアフリー」を推進。

※高齢者障害者等用施設等

バリアフリースイレ、車椅子使用者用駐車施設等、旅客施設等のエレベーター、車両等の優先席等を指す。

～ キャンペーンポスター ～



(バリアフリースイレ) (車椅子使用者用駐車施設等) (旅客施設等のエレベーター) (車両等の優先席)

令和6年度実績

■実施期間

令和6年12月3日～令和7年1月8日

※12月3日～12月9日 障害者週間

※キャンペーンは令和3年度より実施

■協力団体、機関等におけるポスター掲示等による周知

- ・公共交通事業者等
- ・都市公園
- ・ショッピングセンター
- ・高速道路会社
- ・百貨店
- ・地方公共団体等
- など

■SNSを活用したキャンペーン実施の周知

- ・国土交通省公式X (旧Twitter)

各地方局等の取組

- 庁舎内におけるポスター掲示
- チラシの配布

ソフト施策の取組状況(「心のバリアフリー」の推進)

バリアフリー教室の開催

- 高齢者・障害者等のバリアの体験等を通じ、バリアフリーに対する国民の理解増進を図るとともに、「心のバリアフリー」の普及を目指して、各運輸局等が「バリアフリー教室」を開催。



▲視覚障害者サポート体験



▲車椅子サポート体験



▲子供用車椅子

高齢者障害者等用施設等の適正利用推進やあり方の検討

- 高齢者障害者等用施設等（バリアフリートイレ、車椅子使用者用駐車施設等、旅客施設等のエレベーター、車両等の優先席等）の適正な利用の推進に向け、ポスター等によるキャンペーンを実施。また、旅客施設等のエレベーターについては、令和6年度において、訪日外国人旅行者等に向けて英訳を追記。



- 機能分散推進や多様な利用者特性への対応など共生社会におけるトイレの今後のあり方について 検討を行い、令和3年にとりまとめ。

- さらに適正利用推進やハード整備の方向性など車椅子使用者用駐車施設等のあり方について も検討を行い、令和4年に方向性をとりまとめ。これを踏まえつつ、車椅子使用者用駐車施設等の適正利用に関するガイドライン作成に係る検討を行い、令和5年度にとりまとめ、ガイドラインを策定。



- 上記とりまとめの内容については、各種ガイドラインの改正等に反映。

交通事業者の接遇向上に向けた取組

- 「ユニバーサルデザイン2020行動計画」（平成29年2月20日関係閣僚会議決定）に基づき、交通・観光分野における接遇の向上と職員研修の充実を図るため、平成30年に接遇ガイドラインを策定。
- また、「認知症施策推進大綱」（令和元年6月18日関係閣僚会議決定）に基づき、接遇ガイドライン（認知症の人編）を、加えて、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた接遇方法をとりまとめた接遇ガイドライン（追補版）を、令和3年に策定。
- さらに、これらの接遇ガイドラインの内容を反映させるため、平成31年に策定された接遇研修モデルプログラムの改訂版を令和4年に策定。
- 改正障害者差別解消法の内容を踏まえ「事業者における合理的配慮の提供の義務化」の追加等を、接遇ガイドライン、接遇ガイドライン（認知症の人編）及び接遇研修モデルプログラムに反映させるため、令和6年3月に改訂。

公共交通機関等におけるベビーカー利用円滑化推進

- 公共交通機関等におけるベビーカーを一層利用しやすい環境の整備に向け、ベビーカーの安全な使用と周囲の理解協力の普及啓発を図るため、ポスター等によるキャンペーンを実施。



教育啓発特定事業の円滑な実施に向けた取組

- 令和2年バリアフリー法改正により、児童や住民の「心のバリアフリー」理解促進等のために市町村等が実施する事業として、「教育啓発特定事業」を創設。
- そこで、同事業の円滑な実施に向け、具体的な取組内容や実施方法等を検討する際の参考となるようなガイドラインを令和4年に策定。



▲取組の想定例

ベビーカー利用キャンペーン

キャンペーン概要



『ベビーカーマーク』

ベビーカー使用者が安心して利用できる場所や設備（エレベーター、鉄道や車両スペース等）を表示。ベビーカーマークは平成27年5月にJIS化。ベビーカーマークのあるスペースについて一般利用者の配慮を呼びかけ。

国土交通省では、平成26年より**毎年5月頃、ベビーカーキャンペーン**として、「ベビーカー利用にあたってのお願い」と「ベビーカーマーク」を広く周知・浸透させる取組を実施。※今年度より**11月の「こどもまんなか月間」**においても同様のキャンペーンを実施。



ポスター



チラシ

車内デジタルサイネージ
(鉄道版・バス版)

令和6年度実施概要

○ベビーカーキャンペーンの実施

駅や鉄道・バス車両、商業施設などにおいて、ポスター、デジタルサイネージ等により周知。

	ポスター
駅、車両等	約43,000枚
建築物	約900枚

※その他、車内アナウンスを実施するなど事業者独自の取り組みを実施。

- 国土交通省公式X（旧ツイッター）への掲載
- ポスターやデジタルサイネージ等により周知
- 国土交通省HP等においてベビーカーマーク及びキャンペーンの実施の周知
- 政府広報提供ラジオにて放送
- 地方運輸局等が実施するバリアフリー教室におけるベビーカー利用及びベビーカーマークの普及・啓発
- 新たに病院（約60カ所）へのポスター配布（今年度から）

公共交通機関における子ども用車椅子の取扱いについて

子ども用車椅子（バギー型車椅子）の特徴

姿勢を保てない等の子どもが、背もたれの角度を変えられたり、姿勢を固定できたりする「バギー型」の車椅子を利用。ベビーカーと間違えられ、必要な介助が受けられない場合があるため、配慮することが重要。（※）

○折りたためない

車椅子であり、座る姿勢が取れないなどの身体的特徴から、車体を折りたたむことは容易ではない。

○重量がある

車椅子自体の重量に加え、医療機器を搭載している場合もある。車体を持ち上げて大きな段差などを越えることは非常に困難。

○「子ども用車椅子マーク」を付けた利用者あり

※ベビーカーを子ども用車椅子と同じ目的で使用している場合もある。



認知度向上に向けた各種取組

○公共交通事業者等への周知

公共交通事業者への周知を行うとともに、駅や鉄道・バス車両、商業施設などにポスターを掲出。

○子ども用車椅子マーク

「子ども用車椅子」だと判別しやすいように、団体等にて独自にマークを作成。



＜子ども用車椅子マークの一例＞



一般社団法人mina family

バギーマークのお店

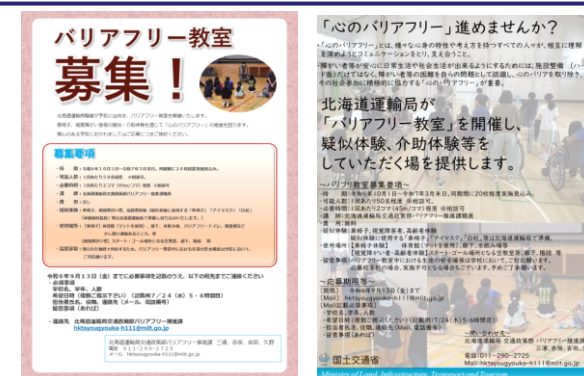
各地方運輸局・地域分科会の取組

【北海道分科会】小学校を対象としたバリアフリー教室の開催増加の取組

北海道運輸局や北海道開発局職員等が講師となり小学生を対象にバリアフリー教室を開催。事業者向けのバリアフリー教室も並行して開催することで、総件数（R5:18件→R6:21件（予定））、参加者（R5:664名→R6:1,002名(予定)）ともに増加させた。

○小学生対象のバリアフリー教室

コロナ禍を経て小学校向けのバリアフリー教室の開催が減少していたことから、小学校向け教室の再開を目指し企画。開催を希望する小学校の募集にあたっては、北海道運輸局から札幌市教育委員会に協力を依頼し、教育委員会から一元的に小学校へ案内。結果、10校以上の小学校から申し込みがあった。



【周知用パンフレット】

○開催状況

小学校計13校（予定含む）においてバリアフリー教室を開催。北海道運輸局や北海道開発局職員等が講師となり、小学生を対象に車いすと視覚障害者の疑似・介助体験を実施。「心のバリアフリー」の重要性について周知啓発を推進。



【バリアフリー教室の様子】

開催日	場所	参加対象者	参加人数
R6.7.3	新札幌わかば小学校	小学4年生	50
R6.10.9	菊水小学校	小学4年生	56
R6.10.16	新琴似北小学校	小学5年生	67
R6.10.23	共栄小学校	小学4年生	79
R6.10.30	八軒西小学校	小学5年生	67
R6.11.6	豊平小学校	小学4年生	64
R6.11.13	澄川南小学校	小学6年生	61
R6.11.20	美香保小学校（北海道開発局と共催）	小学4年生	70
R6.11.21	若松小学校	小学1～6年生	22
R6.11.27	真駒内公園小学校	小学4年生	57
R6.12.11	稲穂小学校	小学5年生	77
R6.12.12	資生館小学校	小学3年生	76
R7.3.11 (予定)	二条小学校	小学4年生	約120

【開催概要】

- 日時: 令和6年9月25日(水)
- 場所: 楽天モバイルパーク宮城
- 参加者: 仙台市立原町小学校 4年生 72名
- 主催: 東北運輸局、東北地方整備局
- 協力: 株式会社楽天野球団、社会福祉法人仙台市社会福祉協議会、NPO法人仙台バリアフリースターセンター

【実施内容】

●施設見学・説明

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰受賞施設であるスタジアムのバリアフリー設備等の説明や株式会社楽天野球団のバリアフリーに関するソフト面の取り組み説明をいただいた。

●車椅子体験

スタジアムコンコース内や内野車椅子席へ車椅子を使って移動したり、その介助を体験した。

●バリアフリーについての講話

車椅子ユーザーの方から、車椅子での日常生活の様子や困りごとについて講話をいただいた。

【参加者の感想】

- スタジアムが障害者の方にやさしい施設であること、段差がない・トイレが広いなど1つ1つの積み重ねでたくさんの方が助かっていることを知った。
- 車椅子体験を通して、段差などの状況ではお手伝いできるようにしたい。
- 講話を聞き、車椅子の人にとって何が困ってしまう事なのかがわかった。困っている人を見かけたら声をかけてみようと思う。



施設見学・説明



車椅子体験



講話

【開催概要】

- 日時：令和6年10月5日（土）
- 場所：勾当台公園いこいのゾーン
- 参加者：会場来場者 体験者：約290人
- 主催：仙台市、仙台市交通局
協力：東北運輸局 他

【実施内容】

市民の公共交通利用促進等を目的としたイベント、「魅力いっぱい！交通フェスタ2024」において、心のバリアフリーを学ぶためのブースを出展。

点字ブロックをU字型に設置し、体験者はアイマスクを着用しながら白杖を使用して、点字ブロック上を歩行する疑似体験を実施した。

一人で歩いたり、介助してもらいながら歩くことを通じて、目の不自由な方の立場や心のバリアフリーへの理解を深めた。

【参加者の感想】

- 白杖で地面の様子は少し分かるが、頭の高さに障害物があった場合は気づくことができない。一人で歩くことは思った以上に怖い。
- 介助してもらおうととても安心する。周りの人の協力が大切だ。
- 目の不自由な方にとって点字ブロックを塞いでしまうことが危険だと分かった。
- 困っている人がいたら助けてあげることが大事だと思った。



(関東) バリアフリー教室 in 宇都宮大学

概要

- 関東運輸局栃木運輸支局では、宇都宮大学にて同大学の研究及び講義の一環として、学生を対象としたバリアフリー教室を開催しました。当日は、関東自動車株式会社のご協力のもと、ベビーカー乗車体験、車椅子乗車体験等を行いました。

実施内容

- 日 時: 令和6年10月3日(木) 10:20~14:10
 - 場 所: 宇都宮大学陽東キャンパス
 - 参加者: 学生100名程度
 - 主 催: 栃木運輸支局
 - 協 力: 一般社団法人栃木県バス協会、関東自動車株式会社
- 【プログラム】
- オリエンテーション(大学による講義)
 - ・車椅子利用者、子ども連れの外出にまつわる課題
 - ・車椅子、ベビーカーの利用方法の説明等
 - 体験学習
 - ・ベビーカー乗車体験
 - ・車椅子乗車体験



参加者の声

- ・ベビーカーは操作が思ったよりも難しく、バスの乗降などが大変だと感じた。それに加えて子供が泣いたりしたとき保護者は苦労すると感じた。そのため、自分ももしバスや鉄道で見かけたら手伝いたいと感じた。
- ・車椅子が思ったより重くて、操作が難しかった。乗ってる人が不安にならない操作方法には練習が必要だと思った。
- ・車椅子に乗っている側は小さな段差でも意外と怖いことが分かった。車椅子やベビーカーでバスを乗り降りする際は特に注意が必要で、できるだけ揺れないようにするのがとても難しそうだった。
- ・普段の生活では全く気にならないほどの小さな段差でも移動の障害になることが改めて分かり、普段の生活から利用することはとても大変だったと思った。



日 時：令和6年9月23日（月） 10:00～15:30

場 所：万代シテイ通り（新潟市）

バリアフリー体験参加者：45名（内訳：車いす体験34名、高齢者疑似体験1名、視覚障害体験10名）

実施概要

万代シテイバスまつり2024でバリアフリー教室を開催しました。バリアフリー体験ではノンステップバスに車椅子で乗降車する体験と特殊な重りや装具を着けてバスに乗降車する高齢者疑似体験を実施しました。また、見えづらくなるゴーグルを着用する視覚障害体験も実施しました。

それらの体験を通じ、障害等の有無にかかわらずお互いに支え合うことの大切さを発信しました。

また、バスのバリアフリー設備に関するパネル展示も行いました。

会場のようす



バリアフリー体験参加者の感想

（車椅子体験）

- ・車椅子でもバスに乗れることをみんなに知ってほしい。 ・自力では乗り降りできないことに気づいた。
- ・車内の車椅子専用スペースが快適に感じた。

（高齢者体験）

- ・身体の負担が大きいと日常の動作に不自由するので、周りのサポートが重要。

（視覚障害体験）

- ・（ゴーグルをかけると）見えない色があり、書かれているものが何か分からない。 ・こんな風に見えると思うと、不安。

日 時：令和6年10月18日（金）9：35～11：55
場 所：新潟市立中之口東小学校
主 催：北陸信越運輸局
協 力：西蒲区社会福祉協議会、新潟交通観光バス株式会社
対象者：新潟市立中之口東小学校 4年生児童（16名）

○実施概要

新潟市立中之口東小学校の児童を対象にバリアフリー教室を開催しました。

児童たちは、車椅子を使って校内施設とバス乗降時のバリアフリーを体験しました。それぞれがペアを組んで車椅子の使用者役と介助者役に分かれ、使用方法、バス乗降時の介助方法や車椅子を固定する装置の説明を受け、普段の生活で車椅子を使用する方にとってどのような支援が必要になるか等を学んでもらいました。

○参加した児童の感想（抜粋）

車椅子で段差を登るのがむずしかったです。バスに乗る時と降りる時も力があるからむずかしかったです。人のことを考えることがよくわかりました。困っている人がいたら助けようと思います。

僕は車椅子を押して、乗って、福祉の重要性がよくわかりました。車椅子での生活が普通の人よりとても難しいことを実感しました。また、段差の大きいところで車椅子を上げるのはとても難しかったです。車椅子に乗る人には、とても親切に、丁寧に対応する必要があると思いました。

車椅子に乗っている人は大変だなと思いました。でも色々な人が手伝ってくれたりしたので、温かい気持ちになりました。階段を登ったり、降りたり、出来ないけど学校にもバスにもスロープがあって、便利だなと思いました。困っている人に声をかけるのは勇気が必要だけど、少しでも助けられるように頑張りたいです。



日 時：令和6年10月23日（水） 13：10～14：40
// 14：50～16：20

場 所：富山短期大学

主 催：北陸信越運輸局

対象者：富山短期大学幼児教育学科生（計79名）

実施概要

富山短期大学幼児教育学科の学生を対象にバリアフリー教室を開催しました。

バリアフリー法、障害者差別解消法に関する講話の後、高齢者疑似体験や、視覚障害者疑似体験、車椅子体験（福祉車両等乗降、介助）をおこない、心のバリアフリーの体現に向けて、障害者や高齢者の気持ちを体験するとともに、声かけなどのコミュニケーションの重要性を学びました。





【北陸信越】バリアフリー教室（第31回鉄道の日記念イベント）

日 時：令和6年10月26日（土）10：00～16：00

場 所：JR新潟駅南口広場

主 催：第31回「鉄道の日」北陸信越地方実行委員会

参加者：延べ3,900名（イベント来場者）

「第31回鉄道の日記念イベント」が新潟市で開かれ、会場であるJR新潟駅南口広場では、管内鉄道事業者等によるブース出展をはじめ、様々な催しがおこなわれ、多くの鉄道ファン、家族連れで賑わいました。

北陸信越運輸局も「バリアフリー体験コーナー」を設け、老人性白内障になるとどのように見えるか体験できるゴーグルを用いたコーナーや、線状ブロック、点状ブロックとともに、鉄道イベントにちなんで「内方線付き点状ブロック」を組み合わせたコースを設置し、白杖を用いて歩いてみる体験コーナーを設置しました。

大人から子供まで多くの方に体験いただき、内方線付き点状ブロックの機能などそれぞれのブロックが果たす役割を理解いただくとともに、各種体験を通して目の不自由な方が駅を利用されときの気持ちを体験してもらうことで、声かけを通したホーム転落等の事故防止への啓発に繋がりました。

ホーム転落事故ゼロへ。

目の不自由な方が
駅を利用される
ときの気持ちを

1

積極的に声をかけて
みましょう。

「お困りですか？」
「お手伝いしましょうか？」など

2

たとえ辞退されたとしても
親切が無になることはありません。
その優しさは必ず伝わります。

3

突然体に触れたり、手を引いたり、
目が不自由な方がお持ちの白い杖を
つかんで引っ張ったりすると、
びっくりさせて思わぬ事故につながる
ことがあります。
お手伝いをされる場合は、
十分な配慮をお願いいたします。

こんなところもポイントです。

危険が迫っているときは 「危ないですよ！」と積極的に声かけをお願いいたします。



日 時：令和6年11月25日（月）

13:30～15:00

場 所：小松市井口町公民館

主 催：北陸信越運輸局

協 力：石川県バス協会、北鉄加賀バス株式会社

対象者：小松市立栗津小学校 4年生児童（14名）

○実施概要

小松市立栗津小学校の児童を対象にバリアフリー教室を開催しました。

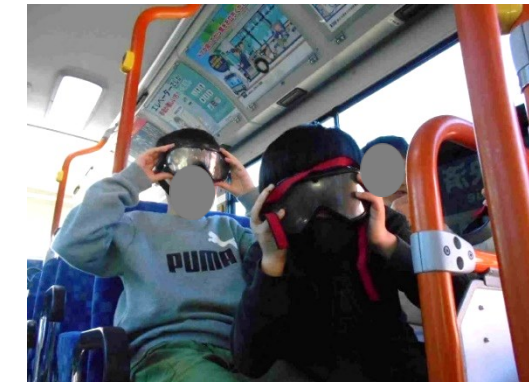
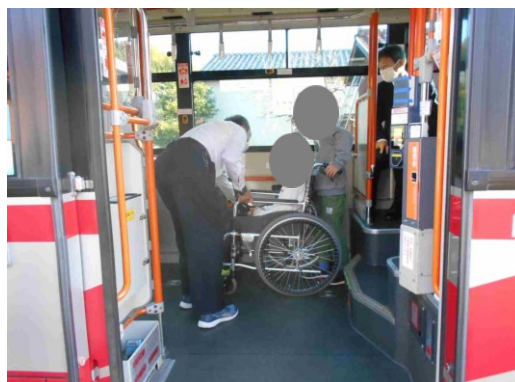
児童たちは、車椅子を使ってバス乗降時のバリアフリーを体験しました。それぞれがペアを組んで車椅子の使用者役と介助者役に分かれ、使用方法、バス乗降時の介助方法や車椅子を固定する装置の説明を受け、普段の生活で車椅子を使用する方にとってどのような支援が必要になるか等を学びました。また、バスの車内では視覚障害体験ゴーグルを着けて、身の回りのものが見えにくくなった状態を体験し、視覚障害のある方にとっての必要な支援を考えました。

～バスの乗り方について（講義）～



バリアフリー教室と同時に北鉄加賀バス株式会社様から児童に対して、バスの乗り方や支払い方法など指導いただきました。

実際にバスに乗って整理券の取り方や運賃表の見方も教えてもらいました。



中部運輸局の主な取組

「心のバリアフリー教室」開催について（令和6年度）①

社会福祉法人瀬戸市社会福祉協議会と連携し、瀬戸市内の小学4年生から中学3年生を対象とした「こどもふくし体験きゃらばん」を開催しました。

【概要】

開催日程：令和6年8月6日（火）
 開催場所：瀬戸市社会福祉保健センター（やすらぎ会館）
 主催：中部運輸局
 協力：社会福祉法人瀬戸市社会福祉協議会、
 独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA）、
 名鉄バス株式会社、
 参加者：小学4年生から中学3年生 20名



【実施内容】

独立行政法人自動車事故対策機構（NASVA）や視覚障害者の方からの講話いただき、バリアフリークイズや車いすやアイマスクを使って低床バスの乗車体験を行いました。

参加した学生からは、「実際に体験して困っている事が分かった。もし見かけたらお手伝いをしたいと思いました」という感想もあり、体験を終えて、バリアフリーの心が芽生えているようでした。



小学4年生を対象に静岡県の東小学校で「バリアフリー教室」を開催しました。

【概要】

開催日程：令和6年10月24日（木）
 開催場所：三島市立東小学校（静岡県）
 主催：中部運輸局静岡運輸支局
 協力：社会福祉法人三島市社会福祉協議会
 株式会社東海バス、三島市
 参加者：小学4年生 58名



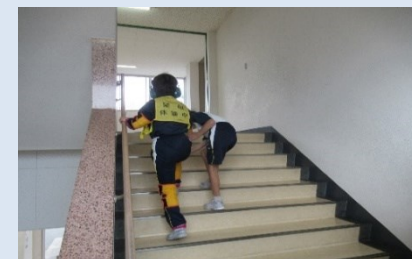
【実施内容】

視覚障がい者の方から講話をいただいた後、各グループに分かれて、体育館に設置したコースをまわる車いす体験、低床バスを使った、車椅子の人が乗降するためのスロープの使用や乗車後の車椅子の固定などの体験、バリアフリークイズなどに取り組みました。初めて経験した事ばかりで、驚いたり対応に困ったりしている様子が見られましたが、前向きに学び考えようとする積極的な姿勢を見ることができました。



「心のバリアフリー教室」開催について（令和6年度）②

開催日程：令和6年11月7日（木）
 開催場所：坂井市立兵庫小学校（福井県）
 主催：中部運輸局
 協力：社会福祉法人坂井市社会福祉協議会、
 京福バス 株式会社
 参加者：小学4年生 15名



下肢障がいの方から講話をいただいた後、各グループに分かれて、おもりやアイマスクを装着した疑似体験、体育館に設置したコースを車椅子介助でまわる車いす体験、低床バスを使用した車椅子乗降体験に取り組みました。子供たちは、安全に歩くために、どのような声かけや接し方をしたら良いのか考えながら、様々な体験に参加していました。

開催日程：令和6年11月8日（金）
 開催場所：坂井市立加戸小学校（福井県）
 主催：中部運輸局
 協力：社会福祉法人坂井市社会福祉協議会、
 京福バス 株式会社
 参加者：小学4年生 21名



障がい者の方に講話をいただいた後、各グループに分かれて、視覚障害体験、車いす体験（ノンステップバス乗降体験含む）に取り組みました。目隠しをした状態で名前を書く体験を実施した際、子供達からは「目が見えていないと字を書くことも大変なことが分かった」と行った感想がありました。

開催日程：令和6年12月13日（金）
 開催場所：名古屋市立本地丘小学校（愛知県）
 主催：中部運輸局
 協力：社会福祉法人
 名古屋市中区社会福祉協議会、
 名鉄バス 株式会社
 参加者：小学5年生 9名



まず、各グループに分かれて、体育館に設置した視覚障害体験コースを介助者・体験者を交代しながら歩いたあと、階段に移動し、視覚障がいの方に実際に降りたり登ったりする様子を実演してもらい、それぞれが交代しながら目をつむって階段の上り下りを体験しました。その後、視覚障がいの方に普段の生活の様子などをお話していただき、じゃがいもの皮むきの様子なども見せていただきました。盲導犬についての説明もしてもらい、子ども達からは「当事者の方々の苦労や工夫がよく分かった」「盲導犬の役割がよくわかった。」「お仕事中は触ったり餌をあげたりしてはいけないことがわかった」「点字ブロックが2種類あるのは初めて知った」といった感想がありました。

【近畿】バリアフリー教室による「心のバリアフリー」の推進

令和6年度 開催実績 14件（内訳：大阪2、京都3、兵庫3、奈良2、滋賀4）

開催地	場所（イベント名）	日程	対象	参加人数	先生	主催
京都府 京都市	梅小路公園 （バスまつり）	6月9日	イベント来場者 （お子様連れファミリー）	10名※	－	近畿運輸局
兵庫県 姫路市	姫路市立 船場小学校	6月25日	小学生	80名	3名	近畿運輸局
滋賀県 草津市	学童保育 のびっ子大路	7月29日	小学生	65名	4名	近畿運輸局
滋賀県 守山市	学童保育 まほろば児童クラブ	8月27日	小学生	38名	5名	近畿運輸局
大阪府 高槻市	高槻市立 芝谷中学校	①9月11日, ②1月10日, ③2月14日	中学生	27名	2名	近畿運輸局
大阪府 藤井寺市	大阪府立 藤井寺工科高等学校 （定時制）	9月11日	定時制高校1年生	20名	8名	近畿運輸局
兵庫県 姫路市	姫路市立 城西小学校	10月7日	小学生	77名	4名	近畿運輸局
滋賀県 彦根市	河瀬地区公民館	10月10日	地域の住民	16名	3名	近畿運輸局
京都府 宇治市	京都文教大学	①10月10日, ②10月17日, ③10月31日	大学生	19名	－	宇治市
奈良県 香芝市	香芝市立 関屋小学校	10月31日	小学生	63名	－	香芝市
京都府 相楽郡精華町	精華町立 東光小学校	11月15日	小学生	65名	－	精華町
奈良県 大和郡山市	大和郡山市立 矢田小学校	11月28日	小学生	85名	4名	近畿運輸局
滋賀県 東近江市	東近江市立 湖東第一小学校	12月10日	小学生	23名	2名	近畿運輸局
兵庫県 姫路市	姫路市立 中寺小学校	12月19日	小学生	71名	3名	近畿運輸局

※バスを使用したバリアフリー教室の参加者数。この他ブースを出展し、バリアフリークイズや車椅子体験、チラシ配布等を併せて実施。

【参加者感想】

- ・障害のある人の気持ちになって考えて、困っている人を見かけたら「お手伝いしましょうか」と声をかけたい。
- ・心のバリアフリーは障害のある人だけでなく、私達の問題でもあることが分かった、
- ・当事者と身近に話せる、直接話を聞くことができる点が良かった。

【啓発活動の輪を広げるための取組】

- ・できる限り多くの先生に参加を働きかけ、体験補助等にも積極的に先生が参加
- ・自治体にバリアフリー教室の資料を提供し、自治体主催でバリアフリー教室を実施
- ・学校の先生方が多数集まる会議でバリアフリー教室に関する資料を配付
- ・バリアフリー教室の保護者参観を実施

令和6年10月10日（木）滋賀県彦根市にある河瀬地区公民館において、地域にお住まいの方々14名を対象にバリアフリー教室を開催しました。

今回は「心のバリアフリー」についての講義を行った後、車椅子の乗車・介助体験と視覚障害者疑似体験を実施しました。講義では心のバリアフリーを広めて、誰もが住みよい社会にするためには役所や公共交通機関だけでなく、社会に住む私たち一人ひとりの協力が不可欠であるということを学びました。また、体験では実際に車椅子に乗った人を介助をしたり、アイマスクをつけて歩いてみたりすることによって、障害への理解を深めるとともに、手助けする際の声かけやコミュニケーションの大切さを学びました。

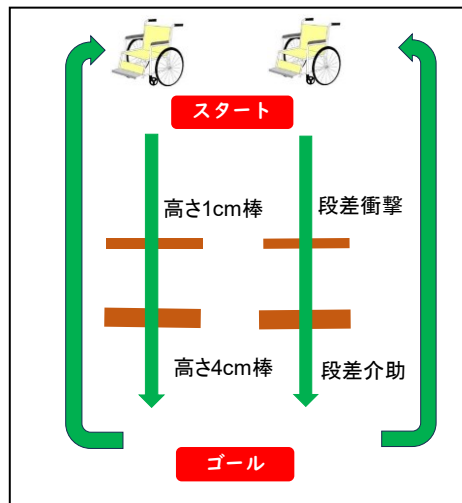
参加した方からは、「相手の立場に立ってみると分からないことだらけ。良い経験だった。」
「たった1cmの段差でも大変。そしてアイマスクをかけていると何も見えないので声かけしていただいて安心しました。」等様々な感想が寄せられました。

令和6年10月10日（木）14:00～15:00

- 挨拶
- 講義（心のバリアフリーについて）（20分）
- 車椅子体験（20分）
〈乗車・介助体験（当事者&介助役）〉
スタート→高さ1cm棒（段差衝撃）→高さ4cm棒（段差介助）→ゴール
- 視覚障害者疑似体験（15分）
スタート→ジグザグ→狭い道→椅子に座る→ゴール
- まとめ（5分）

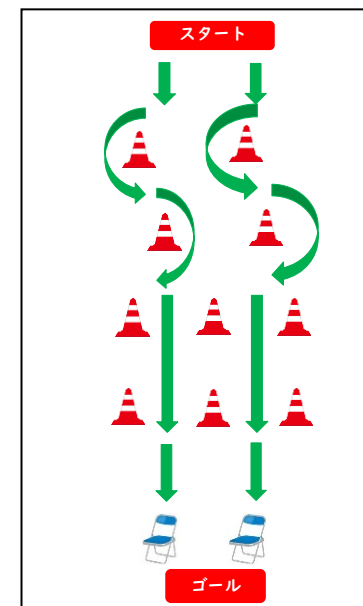
車椅子体験

木の棒を使って段差（1cm、4cm）の介助を体験。前輪上げのコツなど車椅子介助の基礎を学びました。



視覚障害疑似体験

ジグザグ歩行、狭い道、椅子に座る際の介助を体験。案内する際のコミュニケーションの方法を学びました。



【近畿分科会】乗船中の避難誘導に関する意見交換会【概要】

近畿分科会では令和3年度にフェリーの体験乗船、令和5年度に新造船の見学を実施してきた。令和6年度は「すべての乗船者が安全に避難できる態勢を構築し、障害の有無にかかわらず、誰もが安心して利用できる船旅の実現」を目的として、フェリー事業者との意見交換会を開催。障害当事者委員とフェリー事業者が避難誘導をテーマに意見を交換した。

- 実施日: 令和6年10月22日(火)
- 場 所: 大阪合同庁舎第4号館2階共用会議室
- 参加者: 移動等円滑化評価会議近畿分科会、フェリー事業者8者(近畿を発着する船舶)

➤ 避難の流れ【事業者から説明】
・カーフェリーなどの船舶において火災、衝突などが発生しても、船の構造上すぐに沈没、転覆はしない。すぐに逃げなければいけないという訳ではなく、かなり時間的余裕がある。船から外に逃げ出すのは本当の最終手段。発災時は、旅客に対し状況報告の放送を行う。「短7回長1回」の信号は退避準備として旅客を集めるときに使用するもので、この信号即総員退船ということではない。

➤ フェリー事業者による取り組みの例 ()は障害特性

【予約時の確認】
予約時(Web予約も含む)に車椅子有無や船内生活の介助等について伺い、あらかじめ把握できるよう努めている。

- Q1. 車椅子はご利用ですか？もしくは貸出を希望されますか？
- Q2. 乗船・下船の際や船内移動の際にお手伝いが必要ですか？
- Q3. 盲導犬・介助犬・聴導犬等補助犬をお連れですか？
- Q4. 酸素ボンベなどの医療機器を使用されていますか？
- Q5. 車をご自身で運転もしくは同乗して乗船を希望されますか？
- Q6. 歩行が不自由で一般の方より優先乗船を希望されますか？

主な意見
(肢体) 多様な障害を持っている方がいるので、さらに質問の区分を増やすなど、その方にあった対応をお願いしたい。

【発光フラッシュ機器】
聴覚障害の方が個室にいる場合、放送やノックが聞こえないため、乗組員が解錠して周知するが、部屋を開ける前にお知らせできるよう発光フラッシュ機器の貸し出しを開始した。



主な意見
(聴覚) ドアを開ける前の周知としては有効であり、心構えができる。就寝時等は気づかないためフラッシュだけではなく、振動もあればなおよい。ホームページに機器の動作が分かる動画をつけて欲しい。

【フリップボード】
フリップボードを用意しており、避難の情報伝達は口頭とフリップボードを併用する。



主な意見
(発達) アナウンスだけではなく、目視でわかることで安心できる。比較的軽度の障害者であっても漢字にルビがあった方がよい。
(高齢) 高齢になると、耳からの情報だけでなく、文字やピクトグラムなど目でも確認できると安心できる。
(精神) ジェスチャーも添えるとさらに良い。
(聴覚) 手話(手振り身振り)などのコミュニケーションの視点もある。暗いところでも見えるのか気がかり。

➤ 障害当事者 ()は障害特性

(肢体) クルーズ船に乗船した時、最初に避難訓練があった。
避難のポイントが事前にわかると安心につながるので、ホームページなどで発信してはどうか。

(肢体) 各事業者が避難の方法などしっかり考えているのはよく分かった。
実際に運用したときに本当に避難できるのか。
2021年の近畿分科会の乗船体験の際、に実際には客室のドアが重かったり、
客室によっては車椅子の回転が難しく自由に動けないところもあった。
救命胴衣をしっかりと着用すること難しかった。
当事者を交えた避難訓練などにも一緒に取り組めたらいいと思う。

(視覚) 発災時、周囲の状況を確認することができないため、状況の説明をお願いしたい。
日頃から視覚障害者の移動に関して勉強しておいていただきたい。

(聴覚) 私自身は補聴器をしても非常放送の聞き分けはできない。観光船では放送内容がわからないので楽しめないところがある。
食事の時間など、放送による情報を全く得ることができず、いざという時にどのように情報提供があるか不安がある。
非常放送が聞こえない、ドアのノック音がわからないということを理解いただいているということが大事。
1つでも2つでも情報提供、安全確保のツールを増やしていただきたい。

(知的) 重度の障害の方の場合、介助者が付き添っているので、非常時の利用などを介助者へ適切な情報をお伝えいただきたい。

(精神) 精神障害者には予期不安が多いが、火災や衝突があってもすぐに逃げるわけではないと聞いてすごく安心感が高まった。
乗船前にネット等で避難経路などが知れると安心につながる。
事前説明には、ルビやイラスト、障害によっては、動画もあればよりイメージできると思う。
環境適応が難しい精神発達障害者向けに、事前に予約すれば、船に乗って最初に避難経路を体験できる、慣れておくといった事も必要かと思う。反動で強い疲労を感じる事があるため、避難後に休める場所の用意、そのアナウンスも大切だと思う。

(高齢) 当事者と一緒に訓練をすることで、どこが難しいとか、お手伝いが必要だとかが分かり、スムーズな避難に繋がるのではないかと思います。
避難訓練の情報を船内で映像(手話付き)として流せば安全につながる。

(LGBTQ) 乗船手続きに性別が必要な乗り物であり、事故公表時にアウティングになるのではと不安を感じる。



【近畿分科会】鉄道における異常時の案内誘導に関する意見交換会

近年、異常時(台風・大雪等の自然災害)における鉄道事業者が求められる乗客対応の中で、特に「異常時の障害当事者への必要な案内等についての情報交換」を目的として、意見交換会を開催。アクセス関西ネットワーク(障害当事者団体)と鉄道事業者が異常時の案内誘導をテーマに意見を交換した。

- 実施日:令和7年1月28日(火)
- 場 所:大阪合同庁舎第4号館2階共用会議室 ※WEB併用
- 参加者:移動等円滑化評価会議近畿分科会、アクセス関西ネットワーク、鉄道事業者



大阪モノレールの取組

■2024 年度 非常時合同訓練の実施

参加機関: 大阪モノレール、関連会社、警察、消防、土木事務所
目 的: 列車が前後に移動できない駅間停車となった場合において、関係機関と連携した乗客救出や復旧作業の習熟度を高め、非常時における対応力を強化する。
訓練内容: 降下救出、レスキュー救出訓練
被害状況の確認及び運転再開に向けた設備・車両点検訓練

【参考】安全報告書2024
https://www.osaka-monorail.co.jp/company/safety/pdf/anzen_2024.pdf



脱出シューターによる降下救出

脱出シューター(外観)



脱出シューター(車内側)

はしご車によるレスキュー救出

はしご車



視覚障害者



妊婦

近畿日本鉄道の取組

■事故・災害対応復旧訓練における身体の不自由なお客様の避難誘導方法の訓練



警察や消防と合同での事故・災害対応復旧訓練において、社員が負傷者やお身体の不自由なお客様役になって、お声かけや避難誘導方法を含む訓練を実施。

■社員教育

車椅子のお客様対応訓練



講師: 社会福祉協議会

目の不自由なお客様対応訓練



目の不自由なお客様や車いすご利用のお客様の立場に立ったご案内や介助が行えるよう、社員が目の不自由なお客様や車いすご利用のお客様役を交替で行いながら社員に対して教育・訓練を継続的に実施。

■障害当事者団体との協働

- 橿原神宮前駅
線路歩行訓練・踏切道設備案内
(奈良県視覚障がい者団体)
- 天理駅
駅ホームや鉄道車両を活用した視覚障害者の歩行訓練の実施(日本歩行訓練士会)



天理駅



【近畿分科会】鉄道における異常時の案内誘導に関する意見交換会

※()は障害特性。
※色枠はWEB参加者。

➤ 鉄道事業者からアクセス関西ネットワークへの質問



Q

手動車椅子への移乗

電動車椅子は重量があり運搬できない場合は、こちらが用意する手動の車椅子での避難誘導は差支えないか。

A

- ・座位保持ができる人/できない人、短時間なら移乗できる人/短時間でも移乗できない人、など様々。
- ・ケースバイケースなので一概に言うことは難しいが、本人の声を聴くということを基本にしてほしい。
- ・座位保持できない人の移乗に備えて、例えば汎用性のある固定ベルトやストレッチャータイプの車椅子も用意しておくと思う。(肢体)



Q

異常時の降車移動

故障等により駅間で停車した車両からの避難誘導の際、安心して降車できる方法は何か。(非常梯子による降車や座席シートを活用した降車など)

A

- ・障害種別や程度が人によって異なるので、先ほどと同様ケースバイケースになってしまうが、こういった避難誘導(降車方法)が良いかを障害当事者と話し合う事がやはり大事だと思う。(肢体)



Q

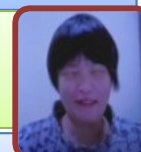
視覚障害の方への告知

視覚障害の方に対し、放送以外で効果的な告知方法があったらご教示いただきたい。

現状の告知方法としては、WEB媒体(HP、SNS、アプリなど)、改札案内表示装置、駅構内での急告板設置、駅・車内における放送、プレスリリース、沿線情報誌、ポスター掲出などがあるが、視認いただくものばかりであるため、視覚障害者にお伝えできる方法としては構内放送に限られてしまっている。

A

- ・「緊急時」と言っても、レベルは様々だと思う。例えば、車内火事など一刻を争うときは、車内放送や直接の声掛けで誘導が必要になる。
- ・電車の運休といった情報は、駅アナウンスや乗換えアプリなどで情報収集している。
- ・視覚障害者のなかでも使っているツールは様々なのでぜひとも色々な媒体で情報発信をしてほしい。(視覚)



Q

情報アクセシビリティ【駅構内】【車内】

異常事態発生時に一番知りたい情報は何か。現状は、駅放送(自動及び係員)、車内放送、デジタルサイネージ掲示、文字(テロップ)伝達装置を使用。

A

- ・聴覚障害の人はどのような異常事態が起きたのかが分からないため、情報提供がなされないと係員や他の乗客に助けを求めることもできなくなる。
- ・電車が止まったときは目に見える形(電光掲示板やHPなど)で、何が起きているのか、復旧にどれくらい時間がかかるのか、避難が必要かどうか、といったことを教えて欲しい。(聴覚)



➤ アクセス関西ネットワークから鉄道事業者への質問



Q

避難訓練(誘導)を実施しているか。そこに障害者は参加しているか。

A

- ・避難訓練自体は年に1回実施しているが、障害当事者が参加する形では実施できていないので、今後の課題としたい。
- ・大規模な避難訓練は年に1回主要駅で、それ以外にも年に2~3回各駅で実施している。その際、地域の障害当事者団体にご協力いただいているケースもある。



Q

階段で、車いす介助(車椅子を担ぐ)の経験はあるか。また、そのような研修をしているか。

A

- ・過去には研修を実施していたが、エレベーター普及や研修時のケガ発生の懸念から現在では実施していない。
- ・今でも実際の業務で車椅子を担ぐことはある。エコモ財団の「交通サポートマネージャー研修」でも、車椅子の担ぎ方について研修を受けている。



➤ 障害当事者からのコメント

- ・(肢体)災害が起きた場合に、エレベーターやエスカレーターが止まることを忘れがち。防災訓練が普段から必要。
- ・(肢体)災害時について、電気も止まるので、呼吸器を使っている人は長時間止められると困る。また、トイレについてもどう対処するか考えていかないといけない。
- ・(聴覚)平常時から情報を届ける体制構築が肝要。駅名看板が少ない、運行変更、払い戻しの案内など、平常時も文字情報の案内が足りていない。
- ・(聴覚)ジェスチャーを交えてのコミュニケーションも有効である。
- ・(LGBTQ)事故や災害が起きたとき、様々な性別の状態や家族形態があることを念頭に本人の意思を尊重して対応して欲しい。性別やセクシャリティなど勝手に周囲に漏れないように個人情報の取扱いに緊急時も含めて配慮して欲しい(プライバシー保護、アウトティング防止の観点)。



➤ 鉄道事業者からのコメント

- ・車椅子のお客様への対応については備付けの簡易車椅子を使うこととしているが、座位保持ができない人まで想定できていなかった。今後の教育に活かしたい。
- ・情報提供のあり方は、掲示板、SNS、サイネージといった現状の方法が全てでは無い。より多くのお客様に情報を届ける方法を探っていききたい。
- ・異常が発生したときには、こういった障害を持っているのか、何を求めているのか、についてコミュニケーションを通じて把握することが大事だと再認識した。
- ・社内研修に障害当事者に講師として参加してもらうことも検討していききたい。
- ・当社は駅設備などハード面については他社と比べると追いついていない部分もあるが、足りていない部分はソフト面で補っていききたいと思う。
- ・お客様の困りごとに対して何ができるか、他の鉄道会社とも情報共有をしつつ引き続き検討していききたい。地方自治体や団体の声も聞きながら勉強していききたい。
- ・座位保持のためのベルトが必要であること、聴覚障害がある人に対してはジェスチャーが有効であるなど、意見交換会で得た情報を社内訓練で活かしていききたい。



➤ 学識者からのコメント

- ・アナウンスの手段に関する議論があったが、アナウンスの伝達内容についても当事者参画で今後考える必要があると思う。
- ・アクセス関西ネットワークとの意見交換会は近畿ならではの取組で伝統あるもの。全国波及を期待したい。
- ・意見交換会を通じて、事業者横並びで先進的な情報の共有ができることは素晴らしい。
- ・普段できないことは異常時にも絶対にできない。シビアな状況を想定して訓練に取り組んでいただきたい。

➤ 近畿分科会委員からのコメント

- ・たくさんの鉄道事業者に参加いただいたことをうれしく思う。
- ・災害訓練などの取組は今後も継続して行ってほしい。その際、障害当事者や地域住民にもお声掛けいただき、一緒に取組を進めていきたい。



- ・鉄道事業者の取組紹介にとどまらず、障害当事者と鉄道事業者双方間で質疑応答が行われ、活発な議論が展開された。
- ・障害当事者にとっては困りごとや思いを鉄道事業者に伝える機会となり、鉄道事業者にとっては多くの気づきを得る機会となった。
- 今後も当事者参画や情報共有を継続することが、鉄道のバリアフリー化推進にとって重要。

- 日 時：令和6年10月24日（木）13:00～15:40
- 場 所：安田女子大学
- 参加者：安田女子大学 公共経営学科 1年生 40名
- 共 催：中国運輸局、安田女子大学
- 協 力：広島交通株式会社
- 内 容：大学生を対象にしたバリアフリー教室

◆取組のポイント◆

- ・実際のバス車両を利用した**当事者体験**
- ・以下をテーマにした**グループディスカッション**
 - ①当事者がバスに乗って映画を見るなら、どんな困難が想定されるか
 - ②**合理的配慮**をめぐる事例で当事者が批判されたのはなぜなのか

①障害の社会モデル、心のバリアフリーについての説明

②バスのバリアフリー機能説明

③バスを使った当事者体験（車椅子、妊婦、子連れ）

④高齢者体験

⑤合理的配慮をテーマとしたグループディスカッション



《テーマ①の意見》※一部抜粋

- ・車椅子だと目線が低いので、映画館の最前列でないと映画を見ることはできない
- ・子連れだと、上映中に子どもが泣いてしまうかもしれないので、防音の個室がほしい
- ・券売機の操作を高齢者でもわかりやすいようにしてほしい

《テーマ②の意見》※一部抜粋

- ・「合理的配慮」という言葉や、事業者が義務を負うことに対する認知度が低い
- ・一人一人の価値観が異なるため、「合理的配慮」と「過重な負担」の範囲の線引きが難しい

→学生に対し、「**建設的対話**」の重要性を伝えた

《参加学生からの感想》

- ・障害の一日体験をして色んなところに行ったら何が不自由なのか想像だけではわからないことがわかるため啓発につながると思います。
- ・実例をもとにディスカッションをした点が、いつもの生活に当てはめて考えやすかったのがよかったです。
- ・コミュニケーションをとりながら、誰かの支えになれるような心の豊かさを持っていたいと思いました。
- ・子供連れ体験をしてベビーカーを持っていると乗り降りも大変で、乗ってからも周りに迷惑をかけないように考えるのが大変だと思いました。

- 日 時：令和6年11月3日（日）10:30～13:00
- 場 所：エディオンピースウイング広島 1階場外円形広場
- 参加者：スタジアム来場者の皆様（500名以上！）
- 主 催：中国運輸局 広島市
- 協 力：株式会社サンフレッチェ広島
- 内 容：試合会場にブース出展し、障害の社会モデルや心のバリアフリーに関するクイズ・展示を実施

◆取組のポイント◆

- ・（株）サンフレッチェ広島、広島市、中国運輸局の**3者申合せの取組として実施**
- ・ **バリアフリーへの関心の有無や老若男女を問わず多くの方への啓発に注力**

SNSによる 用語の啓発・イベントの告知



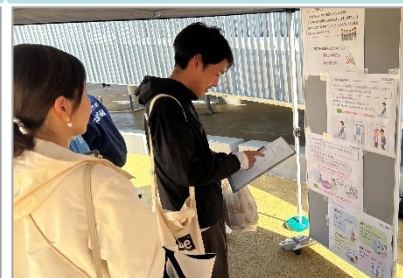
ブースの様子



エディオンピースウイング広島の バリアフリー設備紹介



“障害の社会モデル” “心のバリアフリー”の説明



場外大型ビジョンによる “心のバリアフリー”の啓発



参加者がバリアフリークイズに取り組む様子



《参加者からの感想》

- ・“障害の社会モデル”、“心のバリアフリー”について初めて知った。
- ・ **バリアフリーとは段差をなくすだけではない**ことが分かり、勉強になった。

《総括》

- ・ホーム、アウェイ問わず多くの来場者に参加いただき、バリアフリーを広く啓発できた。
- ・中国運輸局、広島市のバリアフリーに関する取組を知っていただけるきっかけとなった。



- 日 時：令和6年12月1日（日）9:30～15:30
- 場 所：広島市中小企業会館
- 参加者：主に未就学児、小学生
- 主 催：中国運輸局(※)

芸陽バス株式会社 広島電鉄株式会社 広島交通株式会社
 広島バス株式会社 HD西広島株式会社 中国JRバス株式会社(順不同)

※ひろしまバスまつりの主催は、
 ひろしまバスまつり実行委員会および広島県バス協会

- 内 容：以下のとおり※一部抜粋

◆取組のポイント◆

- ・多数の**地域バス会社**と連携
- ・**公共交通の利用促進**と**バリアフリーの啓発**を同時に実施

バスの乗り方説明

バス車内のマナーの説明

バリアフリー設備の説明 (スロープ)

バスの乗降体験

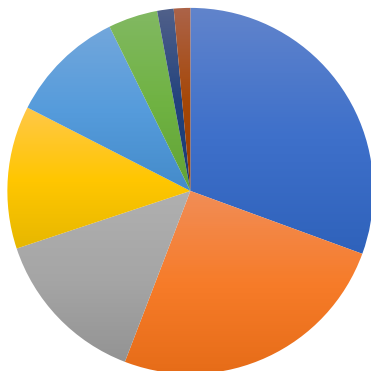
バスに関連する バリアフリークイズの実施



《アンケート結果》

今回の教室で学べたことはなにか。

- 交通安全
- 車内マナー
- バスに対する親しみ
- バリアフリー
- 運賃表の見方



《参加者からの感想》

- ・日頃バスに乗ることがあるが、**何故静かにするかなどの説明が良かった。**
- ・**マイク(車外のインターホン)の使い方は、私自身も分からなかった**ので勉強になりました。
- ・子どもが楽しかったと大変喜んでいました。ありがとうございました。
- ・車イスが実際に見れてよかったです。

《総括》

- ・小さなお子様を対象としていたが、**一緒に参加した大人もバスのバリアフリーについて知る機会となった。**
- ・多くの親子連れの方々に参加いただき、公共交通の利用促進とバリアフリーの啓発を広く実施することができた。

【四国分科会】東予港でバリアフリー教室・フェリーの乗り方教室を開催しました

概要

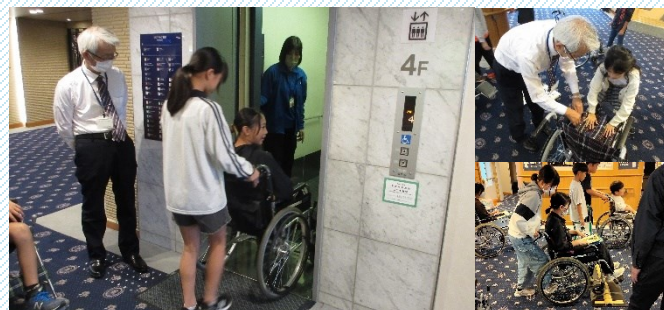
名称 : 楠河小学校バリアフリー教室・フェリーの乗り方教室 in オレンジフェリー
日時 : 令和6年11月1日金曜日 13時40分～15時10分
場所 : 東予港 おれんじおおさか船内
参加者 : 西条市立楠河小学校5・6年生30名
主催 : 国土交通省四国運輸局
協力 : 四国開発フェリー株式会社、社会福祉法人西条市社会福祉協議会、CIL星空
協賛 : 四国旅客船協会



車いす利用者の方の講義

講師: CIL星空代表 井谷様

「障害の社会モデル」の考え方についてお話いただき、障がいとは社会の側にあり、周りの環境の変化や手助けによって乗り越えられることを学びました。



車いす利用者疑似・介助体験

講師: 社会福祉法人西条市社会福祉協議会

車いすの操作方法を教わった後、段差に見立てた障害物や、バリアフリー化された船内のエレベーターや廊下の移動を車いすで介助・自走していただき、車いす利用者の方の移動の難しさや、介助時にどうすれば安心してもらえるかを実感しました。



フェリーの乗り方教室

講師: 四国開発フェリー株式会社

ロイヤルやスイートといったまるでホテルのようなグレードの客室や、入り口の広いバリアフリー客室等についてご説明いただきました。また、普段は入ることができないブリッジにも特別に見学させていただき、色々な設備に興味津々の様子でした。

児童の皆さんからの感想

- ・その人がしょうがいじゃなくまわりがしょうがいということがわかった。
- ・介助の人は、車いすの前のタイヤをうかせるのにけっこう力があるし、車いすを自分で運転するのは少しのだんさでもこわかったです。
- ・フェリーやバリアフリーの工夫は、とてもしっかりしていてすごかったです。とくにへやの入り口の広さが、車いすの人のためにすこし広がっているというのが、車いすにのっている人にとってとてもありがたいと思いました。

◆ 四国分科会委員であるCIL星空さんを講師として招いたバリアフリー教室とあわせて、四国開発フェリー株式会社さんの案内のもと船内(おれんじ おおさか(2018年12月6日就航))のバリアフリー設備を見学させていただきました。



実施内容

- 日時: 令和6年11月1日(金)
- 場所: 東予港フェリーターミナル
- 主催: 四国運輸局
- 協力: 四国開発フェリー株式会社
CIL星空(四国分科会委員)
- 見学場所: おれんじおおさか 船内

・デラックスシングル

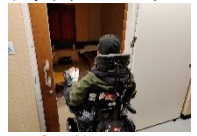


幅 約65cm



蛇口のハンドルが手動式

・デラックスシングル(バリアフリー)



幅 約85cm



蛇口のハンドルがセンサー式

・スイート(バリアフリー)



幅 約105cm



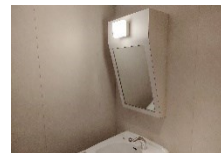
緊急呼出ボタンを低い場所に設置

・バリアフリー浴室



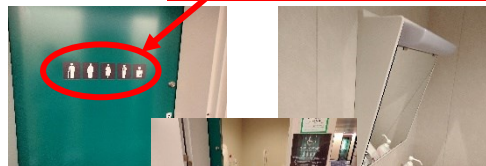
幅 約105cm

手洗いの鏡に
角度を付けて設置

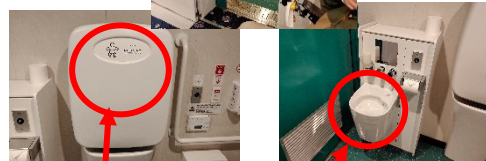


・バリアフリースイレ

コントラスト比を考慮した表示



幅 約105cm



おむつ交換台設置

オストメイト設置

・バリアフリー設備周辺の 船内移動経路



幅 約180cm

・船内エレベーター



幅 約90cm

好事例

- バリアフリールームでは、入り口の幅が約85cm以上確保されており、車いすユーザーの方がスムーズに入室できる設計となっていた。その他にも室内の手洗い器がセンサー式になっていたり、緊急呼出ボタンが低い場所に設置されるなどバリアフリー化が図られていた。
- バリアフリー浴室やバリアフリースイレの手洗い器に設置されている鏡に角度を付けることで車いすユーザーの方の利便性の向上が図られていた。
- 船内の移動経路やエレベーターの幅についても、車いすユーザーの方が利用しやすい空間が確保されていた。

【実施概要】

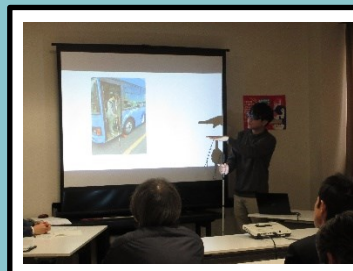
日時: 令和6年12月3日(火)
場所: ことでんバス(株)本社営業所会議室
主催: 四国運輸局
参加: 香川県視覚障害者福祉センター
ことでんバス株式会社

【バリアフリー研修】

様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合う社会の実現に向けて、ことでんバス株式会社さんの従業員の方を対象に、視覚障がい者疑似・サポート体験や障がい当事者の方からの講義を実施しました。

【意見交換】

研修後には、香川県視覚障害者福祉センターの方等とことでんバス(株)さんの意見交換を行いました。
香川県視覚障害者福祉センターさんに日頃よりバス、電車を利用している障がい当事者の方からの意見・要望を収集していただき、また、ことでんバス(株)さんからも視覚に障害のある方へのサービス向上のために、乗務員の方から悩みごとや困りごとについて意見の収集を行っていただきました。



○意見交換

【香川県視覚障害者福祉センターの方等からの意見・要望】

- 白杖をもつようになってからは行き先を聞いてくれたり教えてくれることは増えたように思います。また、道路とバスの段差がないように停めてくださったり声かけしてくれ感謝しています。
- 行き先表示など見やすくしてほしい。まちなかループやレインボー循環バスのような表示だったら弱視の人は助かります。
- バスに乗車した時、盲導犬と一緒にだと、空席を探すのに他のお客様に迷惑しない様に気を使います。運転席からどこが空席か教えていただくと助かります。
- 乗降時には、安全のため介助を駅員等へ必ず依頼しています。毎回丁寧に対応していただいています。ありがとうございます。引き続き、どうかよろしくお願い致します。また、その場にいる他の乗客のかたからも声をかけていただけることでとても安心しています。これについては要望ですが、駅で声かけ運動のポスターを掲示していただいています。そのような、安全な電車利用のための社会啓発の取組を今後も続けてください。ことでんには、感謝を伝えてください。
- 降車の際に歩道、縁石等の車外の状況について、呼び掛けいただけると安心して降車できる。

【事業者の従業員の方等からの意見・要望】

- 白杖をお持ちの場合は気が付きやすいですが、お持ちでないお客様もいると思います。我々が気づいていない場合には、お知らせして頂けたら大変ありがたいです。
- お客様が乗車された後、座席までの誘導などが知りたいです。また、座席に座れなかった(満席など)としたら、どのような対処をすればよいですか。
- お降りの際、交通系ICカードを所持していればカードリーダーの場所を教えたり出来ますが、両替を含めて現金でお支払いする場合はどのような手伝いをしたら良いですか。
- バス案内所の窓口にチャージなど来ていただいた際は口頭でお伝えなどするのですが、イルカカードの残高が今どれ位か、残額確認は苦勞されていると見受けられます。
- 混雑時などには白杖をお持ちの方に気づかないことがありますが、できる限り乗り込んでくる乗客に注意を払うように心掛けたいです。
- 後部の座席が空いている場合は案内した方がいいますか。

【四国分科会】従業員向けのバリアフリー研修を開催しました

概要

開催日：令和6年12月6日金曜日
場所：高知空港旅客ターミナルビル
参加者：高知空港内事業者職員 29名
共催：高知空港ビル株式会社
協力：社会福祉法人南国市社会福祉協議会
一般社団法人福祉住環境ネットワークこうち

体験

高齢者疑似体験

南国市社会福祉協議会さんのご指導のもと、1人ずつ高齢者疑似体験セットを装着して空港内を歩行いただきました。また、それぞれの装具がどのような状態を再現しているのかご説明いただきました。
関節一つ一つの曲がりにくさや足が上がりにくいことなどにより、高齢の方の移動の困難さを実感いただき、今後の対応時に必要なサポートを考えていただきました。



講義

各障害の理解と必要な配慮について

福祉住環境ネットワークこうちの笹岡様より、障害があっても、高齢になっても、旅を楽しめるよう、当事者の方のニーズやコミュニケーションをとる際のツール等をご説明いただきました。そして、何よりもおもてなししたいという気持ちをもって接するのが大切だと感じました。



障害者差別解消法について

令和6年4月より事業者の皆さんも法的義務化された合理的配慮の提供など、障害者差別解消法の概要について、弊局職員より説明させていただきました。



参加者の感想

- こちらがどうするか決めつけるのではなく、お相手が望んでいることを聞きながらお手伝いすることが大切と気づかせて頂きました。
- 人それぞれ感じられる事が違うと思いますので、いつでもお声がけいただけるような姿勢が大切だと感じました。高齢者体験では、視野が狭くなると同時に社会から遮断されたような気持ちがした為、安心できる声がけや接し方が必要だと強く感じました。思い込みで助けようというのではなく、望まれる事をサポートする姿勢を忘れないようにしたいと思います。
- 私自身が障害を持っていますが、障害も千差万別、お客様対応も千差万別で大変難しいと感じていました。このことを共有できたことは非常に心強く感じました。この気持ちを部下に伝えていくこともまた難しいのですが、あきらめることなく障害のある人もない人も分け隔てなく使いやすい高知空港を目指していきます。

- 別府国際観光港 さんふらわあターミナル(別府)において、旅客船事業者の乗組員をはじめとする従業員を対象にバリアフリー講習会を開催。
- 障害当事者や福祉団体、施設設置管理者、地方公共団体等幅広い団体等が関わることで、バリアフリー化への意識向上に加え、ユニバーサルツーリズムの促進にも繋がることを期待。九州分科会委員に講師を依頼、九州地方整備局もスタッフとして参加することで九州分科会としての連携を図った。
- 参加者への質問に、講師(障害当事者)の方が直接答えていただくことで、より理解を深める機会となった。
- 参加者からは、「声かけやコミュニケーションが大切だと思った」、「これまでも車いすや高齢のお客様と接する機会があったが、実際に体験することで新しい気づきがたくさんあった」、「何かお手伝いをしたいと思ってはどうして良いか分からず何もできなかったが、講習会に参加したことで、できることが増え今後に役立てると思う」など、意識の向上に繋がった。



【今後の取組】

今後も、関係機関との協力や連携を活かし、バリアフリー講習会等の実施場所や対象者などの幅を広げるとともに、講習会等を通じて関係者のバリアフリー化の意識向上を図っていく。

講習内容

- ・**座学** 「旅客船事業者に求められること」エコモ財団による講義に加え、当事者との質疑形式で実施。
- ・**体験実習** フェリーターミナルから乗船までのルート、船内の移動やトイレでの介助方法等、車いす及び高齢者疑似体験キットを使って疑似・介助体験。

○別府国際観光港 さんふらわあターミナル(別府) (令和6年12月11日開催 参加者31名)

【協力】(一社)大分県介護福祉士会、大分県旅客船協会、(株)商船三井さんふらわあ、(公財)交通エコロジー・モビリティ財団、NPO法人自立支援センターおおいた、大分県、別府市、九州地方整備局

【主催】(公財)九州運輸振興センター、九州運輸局



(ターミナル内での座学)



(高齢者疑似・介助体験)



(停電時を想定した車いす介助体験)



(船内での車いす疑似・介助体験)

【九州分科会】バリアフリー教室による「心のバリアフリー」推進

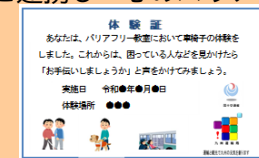
令和6年度 開催実績全9件 参加総数825名

	開催年月日	開催場所	参加者・参加人数	カリキュラム	主催	協力
1	令和6年09月13日	福岡市立香椎小学校	小学4年生106名	車いす擬似・介助体験 バスの乗り方・車いす介助体験 視覚障害者擬似・介助体験	九州運輸局	西日本鉄道(株) 福岡市 九州地方整備局
2	令和6年10月10日	福岡市立照葉北小学校	小学4年生139名	車いす擬似・介助体験 視覚障害者擬似・介助体験 盲導犬学習	九州運輸局	(公財)九州盲導犬協会 福岡市 九州地方整備局
3	令和6年10月18日	福岡市立照葉はばたき小学校	小学4年生61名	車いす擬似・介助体験 バスの乗り方・車いす介助体験	九州運輸局	西日本鉄道(株) 福岡市 九州地方整備局
4	令和6年11月01日	福岡市立玉川小学校	小学4年生135名	車いす擬似・介助体験 盲導犬学習	九州ブロックUD推進本部	(公財)九州盲導犬協会 福岡市
5	令和6年11月15日	飯塚市立穂波東小学校	小学3年生112名	車いす擬似・介助体験 視覚障害者擬似・介助体験	九州運輸局	(福)飯塚市社会福祉協議会 飯塚市
6	令和6年11月22日	飯塚市立高田小学校	小学4年生17名	バスの乗り方・車いす介助体験 視覚障害者擬似・介助体験	九州運輸局	西鉄バス筑豊(株) (福)飯塚市社会福祉協議会 飯塚市
7	令和6年11月28日	飯塚市立飯塚鎮西小学校	小学4年生111名	車いす擬似・介助体験 バスの乗り方・車いす介助体験	九州運輸局	西鉄バス筑豊(株) (福)飯塚市社会福祉協議会 飯塚市
8	令和6年12月11日	別府国際観光港 (さんふらわあターミナル)	旅客航路事業者船員及び 運航担当者等 31名	座学「旅客船事業者に求められること」 高齢者疑似体験学習 車いす擬似・介助体験	九州運輸局 (公財)九州運輸振興センター	(一社)大分県介護福祉士会 (公財)交通エコロジー・モビリティ財団 NPO法人自立支援センターおおいた (株)商船三井さんふらわあ 大分県旅客船協会 大分県、別府市、九州地方整備局
9	令和7年01月31日	舞松原小学校(福岡市)	小学4年生113名	車いす擬似・介助体験 視覚障害者擬似・介助体験	九州運輸局	福岡市 九州地方整備局

【参加者感想】(小学4年生)

- ・困った人がいたら声をかけて、**何回もチャレンジ**して、まちの人を助けていこうと思いました。そして、**相手の気持ちを読み取って行動していきたい**と思いました。
- ・目の不自由な方や足の不自由な方は、毎日こんなに怖い生活をしていることが分かりました。見かけたら、**その人が少しでも安心できるように頑張りたい**です。
- ・車いすは足が不自由な方、お年寄りの方が乗るものなので、**乗っている人が怖いように、安心できるような押し方が大切だ**と思いました。
家に帰ってお家の人に、**今日こんなことを学んだよと伝えたい**と思いました。

- ・「心のバリアフリー」推進の有効な取組として「バリアフリー教室」を実施。
- ・自治体、運輸関係事業者、福祉団体等と連携し「心のバリアフリー」の意識を共有。
- ・複数のカリキュラムの中から学校等の希望に添った内容とし、より理解を深めるため、終了後に意見交換会等を実施、一方向の学習・情報発信ではなく**双方向の学習**としている。



(参加児童に体験証を交付)

【沖縄分科会】ユニバーサルドライバー研修

・地域の課題等に応じた取組として、内閣府沖縄総合事務局が一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会と共催で、タクシードライバー等を対象としたユニバーサルドライバー研修を開催。

沖縄トヨタ自動車株式会社の協力のもと、ジャパントクシーの乗降演習及びグループディスカッションを実施。

・参加者からのアンケートや現地の声では、「実際に車いすを使用した演習は良い経験となった。」、「営業所内でも日々取扱いを練習したい。」、「実技演習について年に複数回実施しては。」との意見があった。

＜日時＞ 【沖縄本島】令和6年11月28日（木）、令和7年1月30日（木）

【宮古】令和6年12月13日（金）、【八重山】令和7年1月17日（金）

＜場所＞ （一社）沖縄県ハイヤー・タクシー協会、宮古タクシー事業協同組合、八重山タクシー事業協同組合

＜対象者＞ タクシードライバー・運行管理者等（参加者：沖縄本島49名、宮古6名、宮古15名 計70名）

＜概要＞ ※沖縄本島のみ記載

1. 課題紹介 9:10～9:30

UDタクシーに対する課題紹介 講師：沖縄総合事務局運輸部監査指導課

2. 講義 9:30～12:00

・タクシーとバリアフリーそしてユニバーサル社会

・お客様の接客にあたって

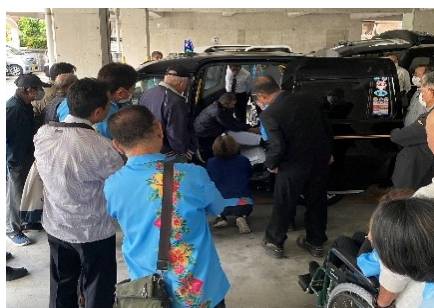
・お客様の理解と接遇・介助の留意点

講師：沖縄県ハイヤー・タクシー協会

3. 実技 13:00～15:00（車いすの取り扱い方と乗車・降車）

講師 沖縄トヨタ自動車株式会社

4. グループディスカッション 15:30～16:50



【研修会の様子】

令和7年2月1日現在

無線局一覧 UD …UDタクシー保有 JB …ジャンボタクシー又はジャンボハイヤー保有				
南部支部				
南部支部（企業グループ無線）				
無線局	電話番号	台数	会社名	所在地
沖縄交通無線 UD JB	098-946-5005 0120-21-5005	445	琉球交通 沖縄交通 東洋交通 大栄交通 アサヒタクシー グランド交通 光臨タクシー	那覇市 浦添市 宜野湾市 豊見城市 南風原町 北谷町 恩納村 西原町 沖縄市
ひまわり無線 UD JB	098-877-8326 0120-11-8326	195	ひまわりタクシー 広栄タクシー 光タクシー 共友タクシー 共和交通 浦添交通 ゆうなタクシー	那覇市 浦添市 中城村 糸満市 北中城村

（参考）タクシー協会独自の取り組みとして、HP上にてUD車両を保有している会社を公表している。

・ 沖縄総合事務局では、高齢者、視覚障がい者、身体障がい者の疑似体験や介助体験などを通じてバリアフリーについての理解を深めてもらうとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者、視覚障がい者等に対し「お手伝いしましょう」とごく自然に声をかけてサポートできる「心のバリアフリー」を目指し、平成13年度以降、地域住民や公共交通機関で働く人々を対象にバリアフリー教室を開催。

(1)実施概要

バリアフリー教室の実施概要は、下記に示すとおり。

令和6年度バリアフリー教室

日 程：令和6年12月17日（火）14：00～17：00

場 所：首里城公園 首里杜館1階 レビューホール

参加者：首里城公園職員、来訪者、障害当事者等（計30名程度）

主 催：内閣府沖縄総合事務局（運輸部企画室、開発建設部建設行政課）

協 力：一般財団法人 沖縄美ら島財団

《実施内容》

①バリアフリーについての授業（座学）

高齢者や障害当事者とのコミュニケーション及び介助の方法や器具の取扱い等について学び、バリアフリーについての理解を深める。

②体験学習

車いすやアイマスク、高齢者疑似体験装具（ヘッドホンや特殊眼鏡、手足の重りなど）等を使用し、日常生活の動作を疑似的に体験することにより、障害のある方の気持ちや介助方法、コミュニケーションの取り方を体験的に学ぶ。

(2)バリアフリー教室の開催準備

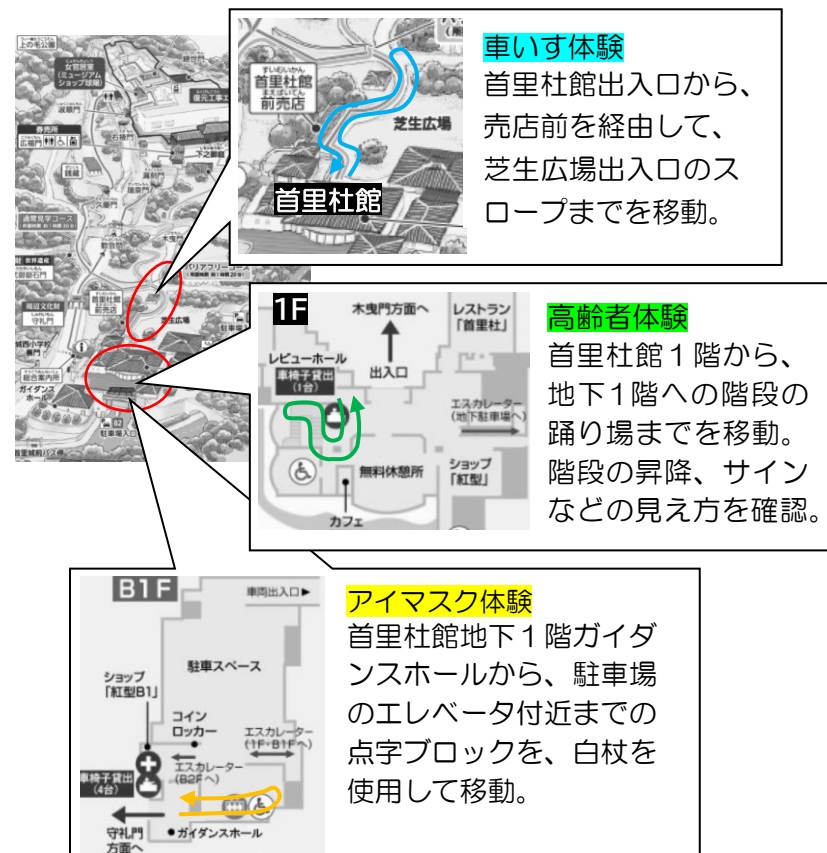
バリアフリー教室開催にあたり、以下の備品を調達した。

備品等	数量
車いす	3台
高齢者疑似体験セット	5セット
アイマスク	30個
消毒用ウェットティッシュ	3袋
傷害保険加入	40名分

(3)体験学習の進め方

参加者全員を1班、2班、3班に分け、それぞれ2人1組のペアを作り、利用体験と介助体験を交代で実施した。体験学習は班ごとに以下の順番で行った。

- 1班：①アイマスク体験 → ②車いす体験 → ③高齢者体験
 2班：①車いす体験 → ②高齢者体験 → ③アイマスク体験
 3班：①高齢者体験 → ②アイマスク体験 → ③車いす体験



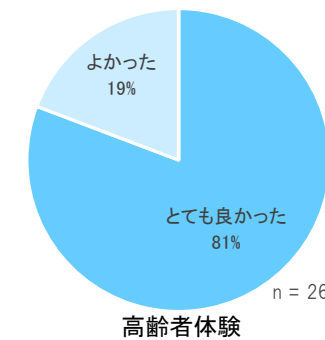
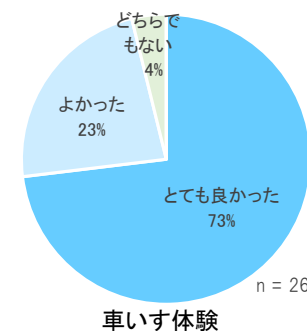
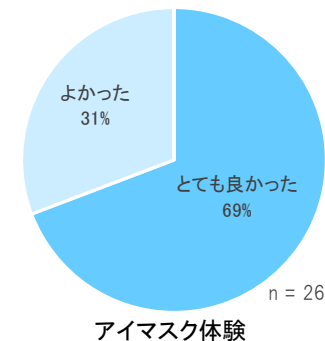
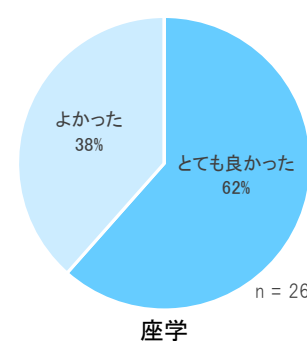
(4) バリアフリー教室の様子

講師は、NPO法人バリアフリーネットワーク会議の親川理事長が行った。座学では、当事者の盲導犬や白杖を利用した日常についての紹介も行った。



(5) とりまとめ

バリアフリー教室に終了時にアンケートを実施し、受講しての評価や感想などを把握した。概ね高評価、好意的な感想があった。



自由意見(抜粋)

- ・障がい者・高齢者のみなさんの困りごとが具体的に聞けたので、自身のご案内する際の参考にさせていただきます。
- ・座学を含め、実際に体験する事で、いつどこで何を当事者の方へ声かけすればいいか、少しの時間でしか発見することが出来ました。
- ・障がい者の大変さや気持ちを知る良い機会となった。ぜひ多くの方に体験してほしい(小学生も)と感じた。

○令和6年10月10日(木)に開催した第6回移動等円滑化評価会議沖縄分科会(沖縄総合事務局設置)において、一般社団法人沖縄県聴覚障害者協会からご意見のあった首里城公園の歴史的空間に配慮したバリアフリー対応について、一般社団法人沖縄県聴覚障害者協会をお招きして令和6年11月21日(木)に意見交換を行った。

《頂いた主な意見》

- ・聴覚障害者は視覚的にわかることが大事で、色の識別が重要となってくる。例えば、赤は避難、緑は不審者注意など、ランプを用いた視覚的な配慮があると、行動を早く起こせる。
- ・仮設EV内に監視カメラがなく、非常時にこちらの状況を伝えるすべがない。また、近くにいる監視員の指示が音声のみでは把握することができないため、モニターがあると、情報表示や監視員とのコミュニケーションが取りやすくなると思う。
- ・音声とピクトグラム以外に、文字での情報発信もあるとよい。また、解説展示について手話動画を使う方法もある。QRコードを読み込み手話解説動画を確認出来る施設もある。
- ・来園者用に聴覚障害者であることを示すプレートがあっても良いのではないか。我々の見た目だけでは「耳が聞こえない」ことを理解してもらえないことがある。
- ・施設の完成前に、あらためて障害者の方と意見交換する場を設けていただくなど配慮願いたい。完成後だと我々の意見が反映されづらい。

《現地見学・意見交換の概要》

日時	令和6年11月21日(木) 10:00~12:00
出席者	一般社団法人沖縄県聴覚障害者協会 沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所首里出張所 沖縄総合事務局 運輸部企画室 沖縄県 都市公園課 沖縄県 首里城復興課 一般財団法人沖縄美ら島財団
内容	1. 現地見学 ・園路(首里杜館~下之御庭) ・広福門(トイレ・券売所) ・奉神門(階段・スロープ・トイレ) ・素屋根見学エリア 2. 意見交換 ・首里城復元に向けた取り組み ・令和の復元の正殿のバリアフリー対策

《現地見学等の様子》



現地見学(素屋根見学エリア)



意見交換会



見学ルート

文部科学省における取組① 学校施設のバリアフリー化

学校施設のバリアフリー化の更なる推進に向けた調査研究について

検討事項

- ・令和8年度以降の整備目標について（現行の整備目標の見直しについて）
- ・学校施設バリアフリー化推進指針の見直しについて ※令和6年6月公布のバリアフリー法施行令の改正等を踏まえた見直し
- ・学校施設のバリアフリー化の加速に向けた取組について 等

検討体制

「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」の下に、バリアフリーに関する学識経験者、行政担当者、学校関係者、当事者団体等を構成員とした部会を設置。

検討スケジュール

バリアフリー法に基づく基本方針改定のスケジュールを踏まえて、令和7年夏頃を目途に検討結果を取りまとめ予定。

学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議

伊香賀 俊治	慶應義塾大学名誉教授
市川 裕二	全国特別支援学校校長会副会長 東京都立立川学園校長
伊藤 俊介	東京電機大学システムデザイン工学部教授
垣野 義典	東京理科大学創域理工学部建築学科教授
亀村 豊	川崎市教育委員会事務局教育環境整備推進室担当課長
倉斗 綾子	千葉工業大学創造工学部デザイン科学科教授
後藤 豊郎	公益社団法人日本PTA全国協議会顧問
斎尾 直子	東京科学大学環境・社会理工学院建築学系教授
鈴木 康之	日本私立中学高等学校連合会常任理事 水戸女子高等学校理事長・校長
高橋 純	東京学芸大学教育学部教授
田邊 俊治	全国市町村教育委員会連合会会長
長澤 悟	東洋大学名誉教授
中埜 良昭	東京大学生産技術研究所教授
奈須 正裕	上智大学総合人間科学部教育学科教授
樋口 直宏	筑波大学人間系教授
吉田 信解	埼玉県本庄市市長

【特別協力者】

植田 みどり	国立教育政策研究所教育政策・評価研究部総括研究官
深堀 直人	国立教育政策研究所文教施設研究センター長

学校施設のバリアフリー化の推進に関する検討部会

市川 宏伸	一般社団法人日本発達障害ネットワーク理事長
市川 裕二	全国特別支援学校校長会副会長 東京都立立川学園校長
伊藤 俊介	東京電機大学システムデザイン工学部教授
岩井 雄一	全国特別支援教育推進連盟理事長
大関 浩仁	全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会会長 品川区立第一日野小学校校長
尾上 浩二	日本障害フォーラム政策委員会委員
小林 聖代	株式会社桂設計第2設計室次長
下倉 玲子	呉工業高等専門学校建築学科准教授
高橋 儀平	東洋大学名誉教授
竹田 衝吾	神戸市教育委員会事務局学校環境整備課課長（施設担当）
根本 益海	戸田市教育委員会事務局教育総務課主事
毛利 靖	茨城大学教育学部教授

【特別協力者】

深堀 直人	国立教育政策研究所文教施設研究センター長
-------	----------------------

文部科学省における取組② 心のバリアフリーノート

心のバリアフリーノート

経緯

- 平成29年2月、「ユニバーサルデザイン2020 行動計画」(関係閣僚会議)が取りまとめられ、次期学習指導要領の全面実施に先行して、すべての子ども達に「心のバリアフリー」に関する理解を深めるため、自分ごととして受け止め、生きて働く知識や経験とするための「心のバリアフリーノート(仮)」の作成を検討することについて明記。
- 平成30年11月、文部科学省に学校関係者や障害者関係団体、有識者等で構成する作成検討会を設置。
- 平成31年3月、作成検討会において内容及び構成の方向性についてとりまとめ。
- 令和元年11月、心のバリアフリーノートを作成・公表。**

内容・構成

- 様々な心身の特性や考え方をもつ人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、学び合い・支え合い・育ち合う関係を形成していくことを目的に、児童生徒用(小学生用、中高生用)、及び教師用指導上の留意点(小学生用、中高生用)を作成。**
- 「バリアフリーに関する基本的な理解」「バリアフリーについて考える学習」「バリアフリーについて行動する学習」で構成した児童生徒の書き込み用教材。



※各学校の実態に応じて、様々な教科等で活用可能。